

守山企業景況調査報告書

(第 59 回)

令和 6 年 4 月～令和 6 年 4 月期 実 績

令和 6 年 7 月～令和 6 年 9 月期 見通し

守山企業景況調査について

(令和6年4月～令和6年6月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 67 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	17	10	58.8%
製造業	13	6	46.2%
建設業	12	8	66.7%
サービス業	17	10	58.8%
卸売業	5	3	60.0%
合計	64	37	57.8%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和6年4月～令和6年6月、見通しを令和6年7月～令和6年9月とし、調査時点は令和6年7月31日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標としてDI指数を採用した。DI指数とはDIffusion Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」のDI指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」のDI指数は3カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算（経常利益）の水準」のDI指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和6年4月～令和6年4月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和6年4月～6月期の調査結果では、業況、売上高、採算の3つの指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲2.8で前回調査の▲25.0から22.2ポイント上昇した。業種別では、小売業▲33.3（前回調査比+3.1）、製造業16.7（前回調査比+27.8）、建設業12.5（前回調査比+72.5）、サービス業0.0（前回調査比+12.5）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）と卸売業以外は上昇した。7月～9月期見通しは全体で5.6である。

<売上高>

売上高DIは18.9で前回調査の▲17.1から36ポイント上昇した。業種別では、小売業▲10.0（前回調査比+30.0）、製造業33.3（前回調査比+44.4）、建設業75.0（前回調査比115.0）、サービス業▲20.0（前回調査比▲32.5）、卸売業66.7（前回調査比+66.7）であり、サービス業を除く各業種で上昇した。7月～9月期見通しは全体で0.0である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは0.0で前回調査の▲30.6から30.6ポイント上昇した。業種別では、小売業▲40.0（前回調査比▲12.7）、製造業0.0（前回調査比+55.6）、建設業50.0（前回調査比+110.0）、サービス業0.0（前回調査比±0.0）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で製造業、建設業が上昇、小売業が低下、サービス業と卸売業は横ばいとなった。7月～9月期見通しは全体で▲18.9である。

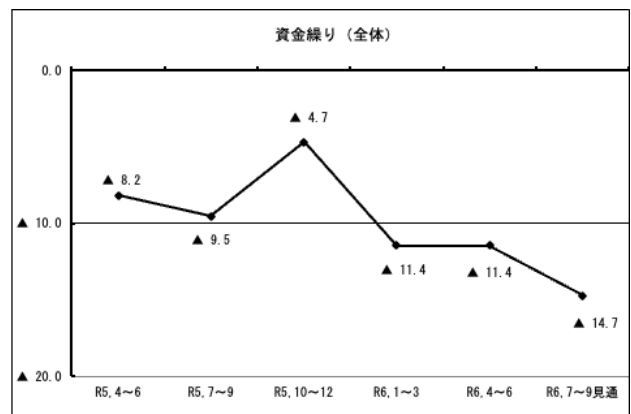
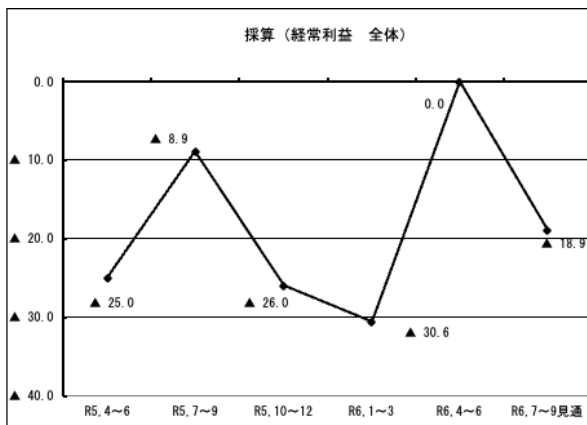
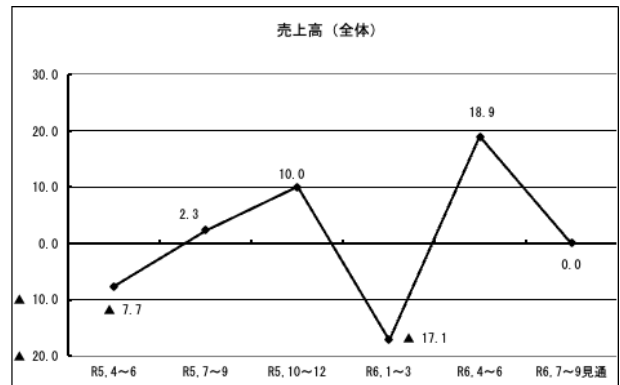
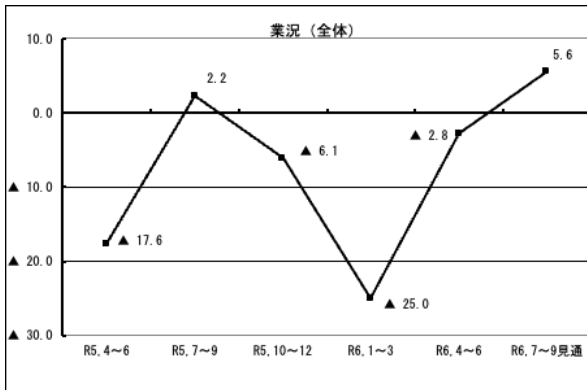
<資金繰り>

資金繰りDIは▲11.4で前回調査と同じであった。業種別では小売業▲40.0（前回調査比▲3.6）、製造業0.0（前回調査比▲12.5）、建設業▲14.3（前回調査比+25.7）、サービス業11.1（前回調査比+11.1）、卸売業0.0（前回調査比▲33.3）で建設業とサービス業で上昇し、小売業、製造業、卸売業は低下した。7月～9月期見通しは全体で▲14.7である。

物価高騰の影響などに対する意見

- ・インバウンドの観光需要に沿った物価になりつつあり、国内価格がインバウンドによって上昇している気がする。
- ・インバウンドに潤う都市部地域から外れた地域は物価上昇、諸税高騰、消費購買の方

向転換で売上は伸びず経費のみが高くなってゆくジレンマがある。打つ手のない時代になった。



小売業

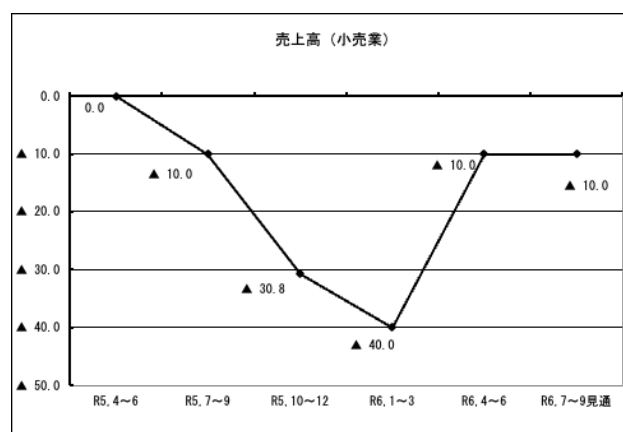
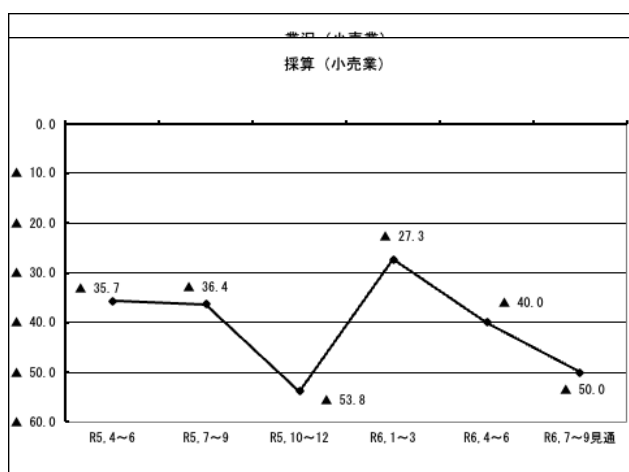
小売業の業況 DI は▲33.3 で前回調査に比べて 3.1 ポイント上昇した。前回調査に続いて上昇である。令和 5 年 10 月～12 月期を底に反転しているようである。その前の底が令和 4 年 4 月～6 月期の▲58.3 であり一定の周期で上昇下降を繰り返しているがマイナスの領域からは脱却できていない。7 月～9 月期見通しは▲20.0 でさらに回復の予想である。

売上高 DI は▲10.0 で前回調査に比べて 30.0 ポイントの上昇であった。前回調査まで 4 四半期連続で低下していたが今回調査で上昇した。令和 5 年 1 月～3 月期をピークに下げ続けていたのでこれからの動きは重要である。7 月～9 月期見通しは▲10.0 で売上好転とまでは期待できないようである。

採算 DI は▲40.0 で前回調査より 12.7 ポイント低下した。採算 DI は過去 2 年を見ても▲25 から▲58.3 の間にしかなく、小売業の採算は相当厳しいといわざるを得ない。7 月～9 月期見通しも▲50.0 で明るい兆しが見えない。

資金繰り DI は▲40.0 で前回調査より 3.6 ポイント低下した。資金繰り DI は令和 5 年 7 月～9 月期▲36.4、令和 6 年 1 月～3 月期▲36.4、続けて今回▲40.0 と悪化傾向が顕著である。7 月～9 月期見通しは▲50.0 とさらに低くなっている。

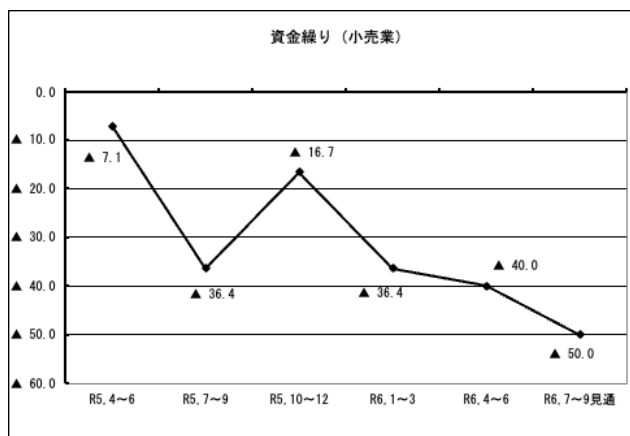
来期に対する設備投資は回答企業の 4 割が実施予定で設備更新が目的とするものが多かった。また、景気動向による計画の見直しの可否は半々であった。



製造業

製造業の業況 DI は 16.7 と前回調査の▲11.1 から 27.8 ポイント上昇した。令和 5 年 4 月～6 月期の▲22.2 を底にして全体として回復の流れにあったが前回調査は逆の動きをし、今回調査で再び回復の流れに戻った格好になった。今回調査では令和 4 年 4 月～6 月期の 20.0 に近づく数値である。7 月～9 月期見通しも 16.7 と好調な数値である。

売上高 DI は 33.3 で前回調査と較べて 44.4 ポイント上昇した。売上高も業況と同じく令和 4 年 4 月～6 月期の 33.3 と並ぶ数値

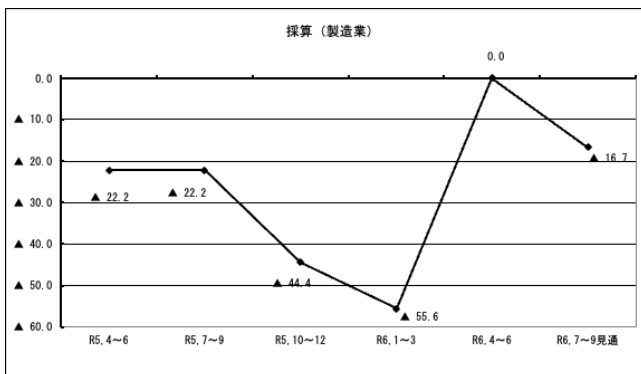
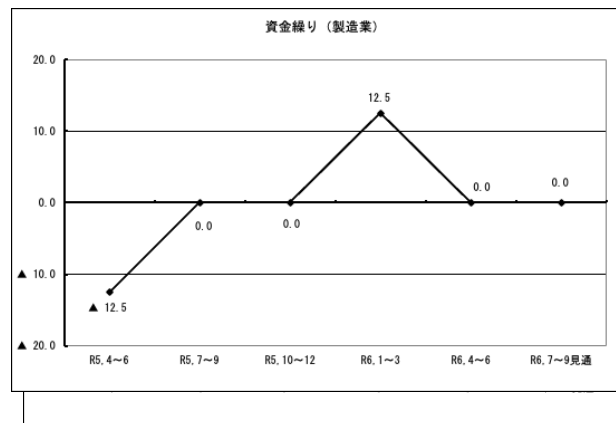
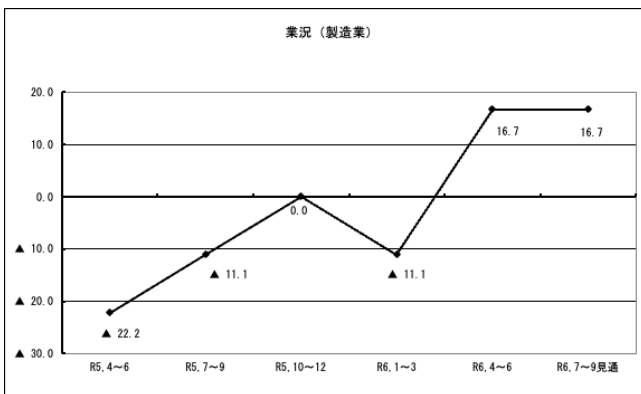


であり令和5年4月～6月期の▲22.2から着実に回復してきた結果といえる。7月～9月期見通しは16.7と下げてはいるがプラスの数値であり見通しは暗くはない。

採算DIは0.0で前回調査に比べて55.6ポイント上昇した。過去1年間で採算DIが基準の0.0に達することがなかったので好転といえる。ただし、7月～9月期見通しが▲16.7と再びマイナスの数値になっているので注意が必要である。

資金繰りDIは0.0で前回調査より12.5ポイント低下した。製造業の資金繰りの指標自体はあまり大きな変化を見せないのが前回調査の見通しと同じ0.0と比較的安定した結果になった。7月～9月期見通しも0.0であり安定している。

来期の設備投資計画は回答数の半数で計画されており、省力化、生産能力増加、設備更新の各目的で景気動向に関らず実施される見通しである。



建設業

建設業の業況DIは12.5であり前回調査から72.5ポイント上昇した。前々回の令和5年10月～12月期が10.0でそこまで数値が戻ったことになる。傾向として見ると、前回調査の▲60.0が特異な結果であったということもできる。7月～9月期見

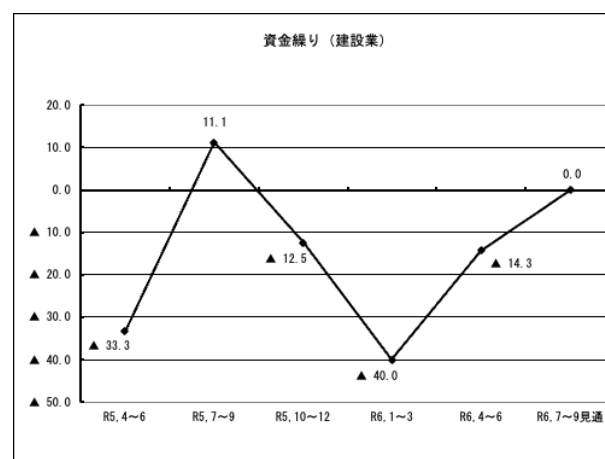
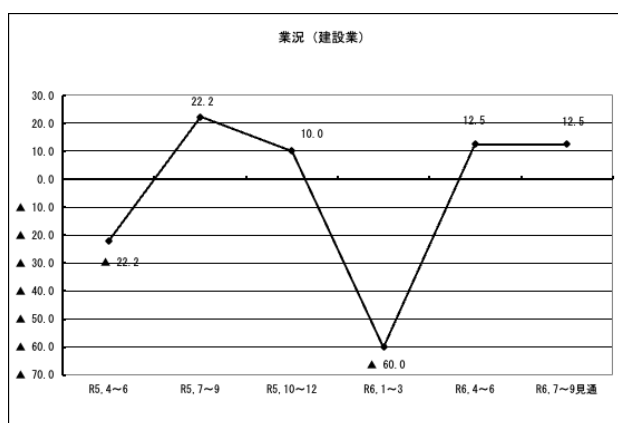
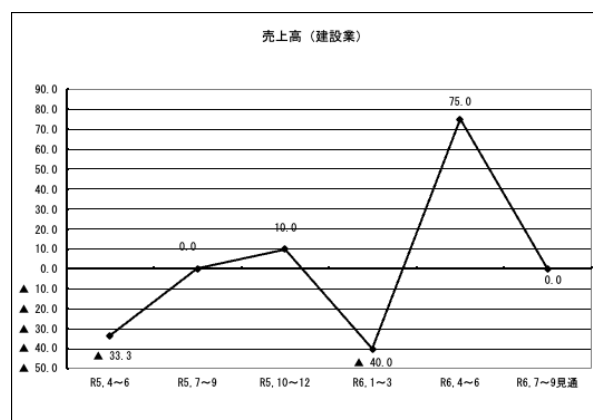
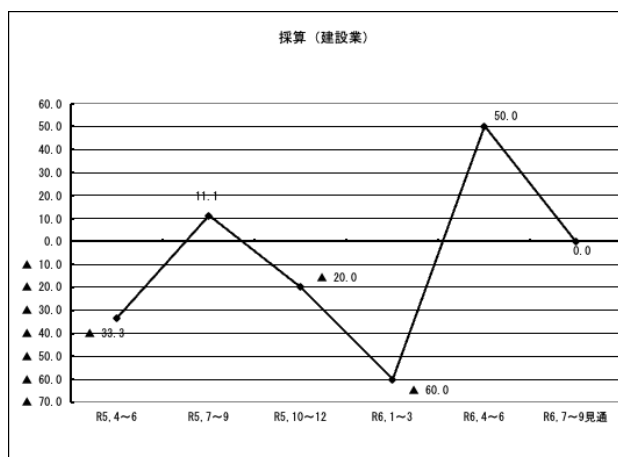
通しも12.5で業況は明るいままである。

売上高DIは75.0で前回調査の▲40.0から比較すると実に115.0の上昇である。令和5年10月～12月期から令和6年1月～3月期の落込みのように建設業では極端に数値が動くことがあり今回もその極端な動きの1つともとれる。7月～9月期見通しは0.0である。

採算DIは50.0で前回調査の▲60.0から110ポイントの上昇であり、極端な動きを見せている。過去を見ると採算DIは概ね上下運動を繰り返すので極端であるがその動きの一環であるとも考えられる。7月～9月期見通しは0.0で下げている。

資金繰りDIは▲14.3で前回調査に比べて25.7ポイント上昇した。資金繰りにおいても他の3指標と同じように前回調査時点と今回調査の差異が極端に大きくなった。資金繰りは令和5年4月～6月期に▲33.3になって以来数値の動き幅が大きくなったようである。7月～9月期見通しは0.0と改善の方向を示している。

来期の設備投資は回答数の7割超で計画をされており、その全部が設備の更新である。また、景気に左右されずに実行されるとする回答が設備投資実施企業の8割になっている。



サービス業

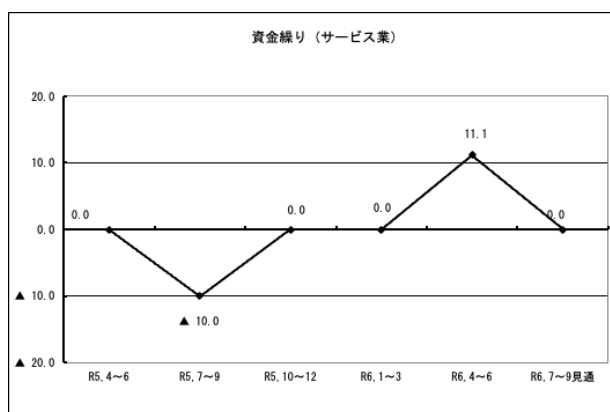
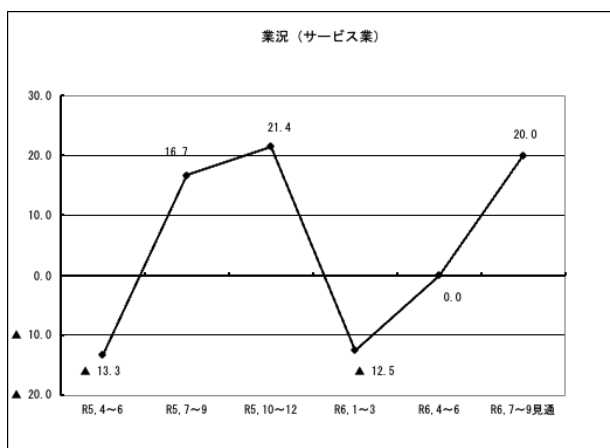
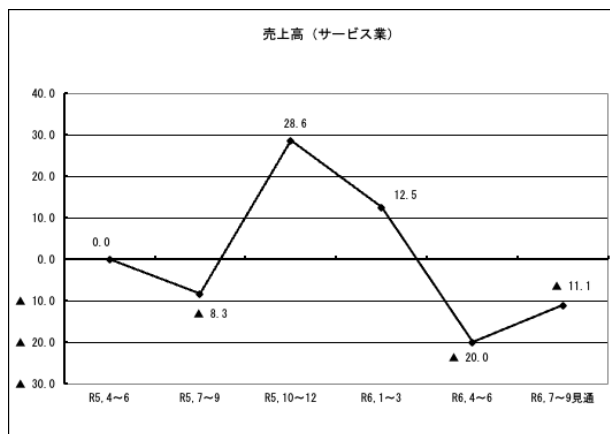
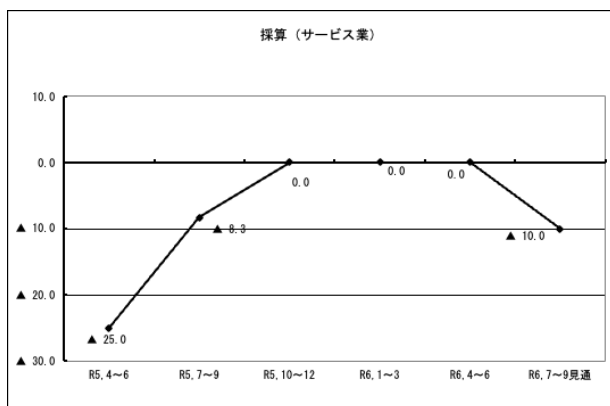
サービス業の業況DIは0.0で前回調査に比べて12.5ポイント上昇した。前回調査時点では4月～6月期見通しを▲25.0としていたが実際は0.0と良い誤算となった。業況は良い悪いを一定の周期で繰り返す動きをするようなのでこの先は良い方に動く順に入ったのかもしれない。7月～9月期見通しは20.0でその予想である。

売上高DIは▲20.0で前回調査より32.5ポイント低下した。2四半期連続の低下である。過去2年を振り返っても▲20.0は最低の数値であるので、今回調査時点は体感的にはかなり厳しい時期であったと思われる。7月～9月期見通しは▲11.1で少し戻す気配である。

採算DIは0.0で前回調査と同じであった。これで3四半期連続での0.0であった。令和5年1月～3月期の▲27.3を底にじわじわと上昇し令和5年10月～12月期に0.0になりそのまま維持できている。ただ、7月～9月期見通しは▲10.0なので注意が必要である。

資金繰り DI は 11.1 で前回調査に比べて 11.1 ポイント上昇した。過去 2 年間でみると資金繰り DI がプラスの数値になったことがないので今回調査の 11.1 は比較するとかなり良い数値といえる。7 月～9 月期見通しは 0.0 である。

来期の設備投資計画は回答数の 4 割強で行われる見通しであるが、その全てで景気動向により見直すとしている。また、半数は設備更新が目的である。



卸売業

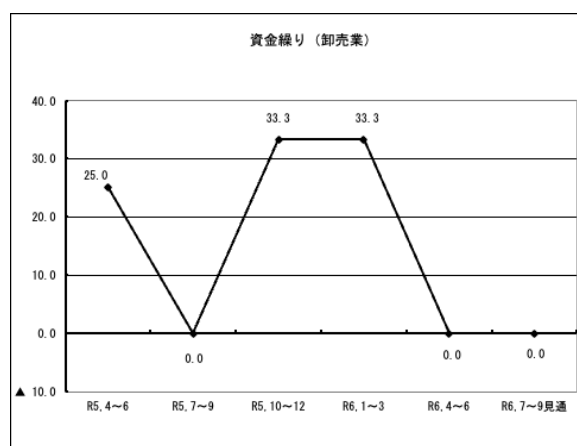
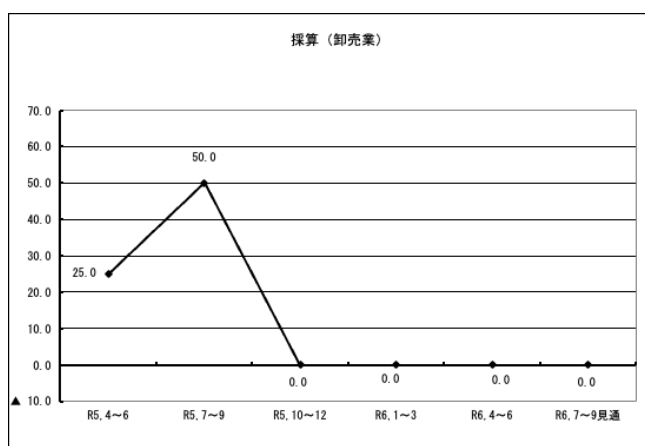
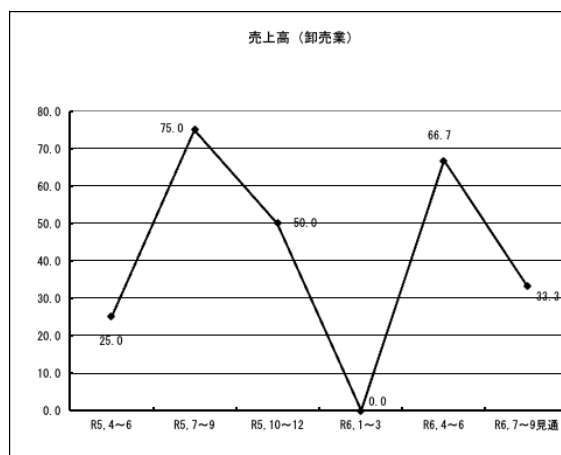
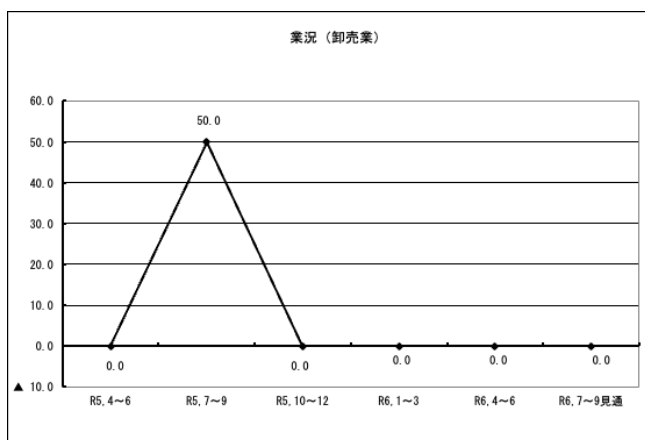
卸売業の業況 DI は 0.0 で前回調査と同じであった。3 四半期連続の 0.0 である。令和 5 年 7 月～9 月期に 50.0 になった業況 DI であるが、その後は 0.0 と動きがなく安定している。7 月～9 月期見通しも 0.0 である。

売上高 DI は 66.7 で前回調査より 66.7 ポイント上昇した。過去 2 年を振り返ると卸売業の売上高 DI は前回調査の 0.0 が最も低くそれ以外は高いレベルで推移している。その意味では前回調査の数値が特異な結果であったのかもしれない。7 月～9 月期見通しは 33.3 となっている。

採算 DI は 0.0 で前回調査と同じであった。これで 3 四半期連続の 0.0 である。令和 4 年 4 月～6 月期に 0.0 となりその後は令和 5 年 7 月～9 月期までプラスの数値が続いていたが、令和 5 年 10 月～12 月期以降は 0.0 のままである。7 月～9 月期見通しも 0.0 で変化は見られない。

DI 資金繰りDI は0.0で前回調査より33.3ポイント低下した。卸売業の資金繰りは過去2年でもマイナスの数値になることがないので安定していると考えられる。7月～9月期見通しも0.0であり安定している。

来期の設備投資計画は回答数の全てで行われなくなっている。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算 (経常利益)	
	4~6 月期動向	7~9 月期見通し	4~6 月期動向	7~9 月期見通し	4~6 月期動向	7~9 月期見通し
全体	▲ 2.8	5.6	18.9	0.0	0.0	▲ 18.9
小売業	▲ 33.3	▲ 20.0	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 40.0	▲ 50.0
製造業	16.7	16.7	33.3	16.7	0.0	▲ 16.7
建設業	12.5	12.5	75.0	0.0	50.0	0.0
サービス業	0.0	20.0	▲ 20.0	▲ 11.1	0.0	▲ 10.0
卸売業	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	27.0	14.3	▲ 28.6	▲ 38.2	▲ 2.9	▲ 5.9
小売業	▲ 10.0	▲ 10.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 25.0
製造業	16.7	16.7	▲ 50.0	▲ 50.0	16.7	16.7
建設業	75.0	28.6	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 14.3
サービス業	10.0	10.0	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 20.0	▲ 10.0
卸売業	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	33.3

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し	4～6 月期動 向	7～9 月期見 通し
全 体	▲ 11.4	▲ 14.7	11.5	7.7	11.1	7.4
小売業	▲ 40.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7
建設業	▲ 14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	11.1	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3
卸売業	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0

過去からの動向

守山市のDIの前年同期比較の推移(全体)

